

TECHNICAL DATA

仕上りの種類	地下外壁用水和凝固型塗膜防水材
製品名	ネオモル Y

第4版 作成日： 2014年11月26日



菊水化学工業株式会社

標準施工仕様書

- 仕上げの種類 : 地下外壁用水和凝固型塗膜防水材
- 製品名 : ネオモル Y
- 適用範囲 : 地下外壁の防水 等
- 工程 :

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間	所要量
下塗り	ネオモル水性下塗材 主材 : 16kg 無希釈	ウールローラー等	1	3以上	約 80 m ² /16kg 約 0.2kg/m ²
主材塗り	ネオモル Y 主材 : 10kg 混和液 : 7kg 清水 : 0~0.4 L	リシンガン等	2	工程内 追っかけ	約 7.3 m ² /セット 約 2.3 kg/m ²

標準塗厚 : 約 1.5mm 厚

単位容積質量 : 約 1.5kg/ L

練り混ぜ後の可使用時間 : 30 分以内 (20℃)

注 1. 下地の状況に応じて、適切な下塗材を選定して施工して下さい。

● 工 法 :

(1) 下地処理

- ・コンクリート面の突起物、レイトンス及び白華は、グラインダーがけ又は皮スキ等で除去して下さい
- ・汚れ及び付着物は、ワイヤーブラシ・研磨紙・布等で除去し、必要に応じて水洗いを行って下さい。
- ・下地のひび割れ、破損、浮きなどはBR工法等で適切な処理をして下さい。

(2) 材料の取扱い (練り混ぜ)

- ・下塗材は、無希釈ですが均一に混ぜ合わせて下さい。
- ・主材はあらかじめ空練りを行い、混和液は攪拌した後、練り混ぜを行って下さい。
- ・主材は、練り容器を用い、ネオモル Y 混和液 1 缶 (7kg) 中にネオモル Y 主材 1 袋 (10kg) を徐々に加え均一に混練し、必要に応じて清水 0~0.4 L で粘度調整し、ふるい (1~2mm 目) でこして下さい。

(3) 下塗り

- ・下地の吸い込みが均一になるよう塗り残しのないよう行って下さい。

(4) 主材塗り

- ・ 一度に厚みを付けず2回吹きで所定の塗り厚に仕上げてください。
- ・ 工法は吹付けとし、リシンガンのノズルを下地面に対して直角に保ち、厚みむら、吹き継ぎむら、吹き残しのないように注意して行なってください。

● 荷 姿

下塗材：	ネオモル水性下塗材	NET：	16kg/缶
主 材：	ネオモル Y	主 材	NET： 10kg/袋
		混和液	NET： 7kg/缶

成分表

●下塗材

ネオモル水性下塗材

内 容	重 量 (%)
エポキシ変性アクリル樹脂エマルジョン	100.0
計	100.0

●主材

ネオモルY 主材

内 容	重 量 (%)
無機質結合材	32.9
骨材	65.9
添加剤	1.2
計	100.0

ネオモルY 混和液

アクリル樹脂エマルジョン	89.2
水	9.3
添加剤	1.5
計	100.0

性能試験成績書

種	類	地下外壁用水和凝固型塗膜防水材			
供	試	材	料	下塗材：ネオモル水性下塗材 主 材：ネオモルY	
項	目	規	定		
低温安定性	(混和液)	塊がなく組成物の分離・凝集がない。	合 格	試験方法は、 JIS A 6909 (防 水形複層塗材C E) に準拠	
軟度変化	B法	-15~15%	-2		
初期乾燥	ひび割れ抵抗性	ひび割れない。	合 格		
付着強さ	標準状態	0.7N/mm ²	1.51		
	浸水後	0.5N/mm ²	1.23		
温冷繰り返し		試験体の表面に、ひび割れ、剥がれ及び膨れがなく、かつ、著しい変色及び光沢低下がない。	合 格		
透水性	B法	0.5ml以下	0.12		
耐衝撃性		ひび割れ、剥がれ及び著しい変形がない。	合 格		
引張強さ	無 処 理	-10℃	(N/ mm ²)		9.10
		20℃	(N/ mm ²)	1.45	
		60℃	(N/ mm ²)	1.13	
	加熱処理		(N/ mm ²)	1.65	
	アルカリ処理		(N/ mm ²)	1.78	
	酸処理		(N/ mm ²)	0.80	
	浸水処理		(N/ mm ²)	1.90	
	伸び率	無 処 理	-10℃	つかみ間の伸び (%)	2
20℃			標線間の伸び (%)	60	
			つかみ間の伸び (%)	40	
60℃			つかみ間の伸び (%)	20	
加熱処理		標線間の伸び (%)	65		
アルカリ処理		標線間の伸び (%)	30		
酸処理		標線間の伸び (%)	88		
浸水処理		標線間の伸び (%)	38		
引裂強さ		(N/mm)	84		
ゼロスパンテンション		(mm)	2.1	自社法	

*上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承ください。

施工にあたっての要点

●施工

- 【1】 色・模様決定に当たっては、原則として塗見本を作製して、工事監理者の承認を受けて下さい。
- 【2】 塗見本は、必要に応じて工程ごとに手順が分かるものとします。
- 【3】 所定の塗付量に達しない場合や超えてしまう場合には、種々の欠陥を生じる場合があります。所定の塗付量を守って施工して下さい。

●材料

- 【1】 材料は直射日光下及び0℃以下での保管は避けて下さい。
- 【2】 製品は、湿気に注意し、水かかりを避け、パレットの上に置き、なるべく乾燥した屋内に保管して下さい。
- 【3】 施工時は換気を十分に行って下さい。

●工法

- 【1】 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工して下さい。
- 【2】 製品はミキサーで混ぜ合わせて下さい。
- 【3】 製品は空練りを行った後、練り混ぜを行って下さい。
- 【4】 練り水及び希釈水は必ず清水を使用して下さい。
- 【5】 練り混ぜ後、可使用時間以内に使い切ってください。また、可使用時間は温度、希釈によって変わりますので、練り混ぜ後はなるべく早く使い切ってください。
- 【6】 可使用時間の過ぎた材料を、練り直して再度使用しないで下さい。
- 【7】 練り足し、水を加えての練り戻しはしないで下さい。
- 【8】 表面に白華が発生した場合は水洗い等により除去してから次工程の作業を行って下さい。

●施工管理

- 【1】 施工場所の気温が5℃以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生じることがありますので、施工を避けて下さい。
- 【2】 降雨、結露、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を避けて下さい。
- 【3】 施工しない箇所はあらかじめ養生をし、その他の材料が付着しないようにして下さい。
- 【4】 養生を剥がす際は、十分に注意して行って下さい。
- 【5】 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度の上昇を防止して下さい。
- 【6】 施工箇所が高温である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜて下さい。

- 【7】 既調合タイプに製品に現場で、セメント、砂等の指定材料以外を使用しないで下さい。
- 【8】 小分けでご使用の場合は計量器で正確に計量を行なって下さい。

●その他の注意事項

- 【1】 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないようにして下さい。
- 【2】 磁器タイル洗浄用の酸が他の仕上材表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行って下さい。
- 【3】 施工器具・条件は代表的なものです。
施工器具、施工方法により若干の色相差を生じることがあります。
- 【4】 標準施工面積・所要量及び間隔時間の値は標準的なものです。施工器具、タイルの種類、目地幅、塗り厚により異なります。
- 【5】 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細は SDS（安全データシート、旧MSDS）を参照して下さい。

*本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにして下さい。